

○社会科における令和元年度授業改善プランの検証

<p>取り組みにおける成果と課題</p> <p>成果として</p> <p>①既習の基礎的知識の定着を図る授業を展開しているため、前年度に比べ全学年の教科の平均正答率が目標値を上回って現れた。</p> <p>②精選した多くの地図や統計資料を提示し、それを読み取り、活用する授業を継続して展開しているため、第2、第3学年の教科平均正答率「表現力」の活用の分野で、上回って現れた。</p> <p>課題として</p> <p>①第1・第3学年の思考力・判断力・表現力等の向上のため、主体的・対話的で深い学びの実践を継続することである。</p> <p>②基礎的な知識や資料活用能力を用い、社会的なものの見方を文章化できるようにする能力が不足していることである。</p>
--

○社会科における大田区学習効果測定の結果分析

達成率（経年比較）△目標値を上回る ≡目標値と同程度である ▼目標値を下回る

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第1学年	全体 ≡ 基礎 △ 活用(思考・判断) ≡ 活用(表現力) ≡		
第2学年	全体 △ 基礎 △ 活用(思考・判断) △ 活用(表現力) △	全体 △ 基礎 △ 活用(思考・判断) ≡ 活用(表現力) ▼	
第3学年	全体 △ 基礎 ≡ 活用(思考・判断) ≡ 活用(表現力) △	全体 ≡ 基礎 ≡ 活用(思考・判断) △ 活用(表現力) △	全体 ≡ 基礎 ≡ 活用(思考・判断) ≡ 活用(表現力) ≡

○社会科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>第2、第3学年の社会科全体の正答率については、目標値と並んでいる項目が多かったが、今年度は活用（表現）の分野で、目標値を上回った。</p> <p>第1学年は、全体・基礎分野で目標値を上回っている。問題の内容別正答率では、全分野目標値を上回っている。</p> <p>第2学年は、地理分野の「世界の地域構成」と「世界の各地の人々の生活と環境」と「世界の諸地域」、歴史分野の「中世の日本」は目標値を上回っている。</p> <p>第3学年は、地理分野「世界と比べた日本の地域的特色」と歴史分野「明治時代」は、目標値を上回っている。</p>
----------	--

観 点 別 結 果 の 分 析	<p>「関心・意欲・態度」は、全学年とも、目標値を上回っている。</p> <p>「思考・判断・表現」でも、全学年とも、目標値を上回っている。</p> <p>「資料活用の技能」でも、全学年ともかなり上回っているが、</p> <p>「知識・理解」では、全学年ともほぼ目標値を上回っており、既習内容の理解の定着を狙った授業の成果が現れた。</p>
--------------------------------------	--

○調査に基づいた授業改善のポイント

- 1 既習の学習内容の定着を図る。
 - ・チャイム着席を励行し、落ち着いて授業に参加できる学習環境を整える。
 - ・基礎的な知識の定着を図る授業を継続的に展開する。また、基礎学力テスト（名称：学習オリンピック等）を計画し、家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。
- 2 継続して資料を読み取り、活用する力の育成を図る。
 - ・精選した多くの地図や写真、映像、統計資料、新聞資料などを提示し、それを読み取り、活用させる授業を継続的に展開する。
- 3 「関心・意欲・態度」を高めるために、キャリア教育の視点を取り入れ、主発問を明確にする。また、電子黒板を活用し、授業をビジュアル化する中で「自己理解・自己管理能力」を身に付けさせる。

○社会科の授業改善策

・基礎的な知識のいっそうの定着を図るために

- 第1学年 ワークシートの作業を主体的に行い、自己の言葉で表現することで学習内容の理解・定着を図る。また、まとめノート作成や家庭での復習を利用し基礎知識の定着を図る。
- 第2学年 落ち着いた雰囲気の中で、集中できる授業を実施する。また定期考査の他に基礎学力テストとその後の補習、年間4回のノートまとめを実施して基礎的な知識の定着を図る。
- 第3学年 ノート点検を定期考査前に実施し、ノートに上手にまとめる力を養うことにより、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。

・資料を読み取り、活用する力を高めるために

- 第1学年 地理的分野では、気温図や輸出入に関するグラフや地図の分布の読み取りを通して資料活用の技能を高める。夏季休業中には、世界の国調べを行い、興味・関心を高める。歴史的分野では、文献資料・絵画・写真資料を利用し、背景や特色の理解を図る。また、両分野において、スライドを有効活用するなど ICT 機器の利用を推進する。
- 第2学年 地理的分野では、白地図作業に継続的に取り組む。教科書の資料や写真に着目させ、それを中心に授業をすすめる。冬休みには、地域調査に取り組ませる。歴史的分野では、近現代史では、ワークシートを活用して統計資料からその時代の特色を捉えるように取り組む。
- 第3学年 公民的分野では、現代の問題を含めた精選した資料を有効に活用し、現代社会の特色を多面的に捉えられるようにする。歴史的分野では、教科書等の統計資料からその時代の課題を見いだす取り組みを行う。また、ノートまとめを通し、資料活用の技能を高めたり、租税教室で外部のゲストティーチャーを活用したりして、作業的、体験的学習を推進する。

